



株式会社あおもり海山(西津軽郡深浦町)

取締役営業部長

の ろ ひ で き

野呂 英樹 さん(30)

【プロフィール】

青森市出身。青森高校から東京水産大学へ進学。東京海洋大学大学院卒業後、2009年青森県庁へ入庁。水産技師として勤務する傍らで「NPO法人Fair Trade Fishery.」を立ち上げ活動の場を広げる。2014年、県庁を辞め「株式会社あおもり海山」入社。

まずは深浦町のマグロを全国へ 青森県の漁業はもっと元気になる!

私のライフストーリー

My History

●子どものころ

釣り好きの父の影響で釣りを始める。将来は海に関係する仕事に就きたいと考えていた。

●小学校・中学校

小学校から野球を始め野球少年に。小学校ではピッチャー、中学校では外野手だった。海釣りにもよく出かけた。

●高校

青森高校に入学。甲子園を目指して野球漬けの日々。2年生のときには県大会決勝進出。引退後はがむしゃらに受験勉強。

●大学

東京水産大学に入学。卒業後は東京海洋大学大学院に進学し、水産資源の持続的漁業のあり方について研究する。

●就職

青森県庁に入庁。地元の漁業を活性化したいという目標のもと、水産技師として漁船の許可や検査、ナマコと昆布の研究を担当する。

株ホリエイの堀内社長と出会い、後悔しない生き方を目指す

NPO法人の活動を始め、もっとできることはないかと悩んでいたとき、「後悔しないように覚悟を決めなさい!」というアドバイスを受け、県庁を退庁し、「株式会社あおもり海山」へ入社。

現在の仕事に就くまでの経緯を教えてください

幼いころから海釣りが好きで、中学生になったころから漠然と、将来は海に関わる仕事をしてみたいと思い始めるようになったことを覚えています。

東京水産大学では、水産資源の持続的な有効活用について学びました。魚をはじめとする水産資源は、石油などの地下資源とは異なり、産卵する個体があれば増やすことも可能です。逆に捕りすぎてしまうと将来は枯渇する危険性もあるため、どれだけの数量ならば永続的に捕ることが可能なのかという計算や調査方法について詳しく学びました。そして、その学んだことを活かすために、水産技師として2009年、青森県庁に入りました。水産技師として働く中で、青森県は豊富な水産資源があるにもかかわらず、その魅力が伝えきれていないために漁業者は厳しい環境にあることを実感しました。それをなんとかできないかと考え、2010年に「NPO法人Fair Trade Fishery.(フェア・トレード・フィッシャリー)」を立ち上げました。

どんな魚が売れるのかなど、多くの漁業者と話す機会が増えてくると、県という立場ではできないことを民間企業でやってみたいという思いが生まれてきました。そんなとき、深浦町の「株式会社ホリエイ」の堀内精二社長と出会い、この「株式会社あおもり海山」へ転職しました。

転職のきっかけは何だったんですか?

大学生のころから元気のない青森県の漁業が気になっていました。

県庁職員になってからもその思いが日々募っていき、地元の活性化のために何かできることはないかと立ち上げたのが「NPO



自社の漁船から水揚げされた魚の選別作業を見学

法人Fair Trade Fishery.]です。その活動を続けていく中で、このまま県庁職員を続けながらでいいのか、NPOでの活動に集中するべきなのか、それとも会社を立ち上げるべきかなどと悩むようになりました。そんなとき、足を運んでいた東京の勉強会で講師を務めていた方から、「後悔しないように難しい道を選ぶ覚悟を決めなさい」と言われ、決意が固まりました。これからの可能性がある産業なので、自分の思いを信じ、熱心に誘っていただいた堀内社長とこの仕事に賭けることにしました。

仕事の魅力、やりがいは何ですか？

自分で仕事を創り出していくことに魅力を感じています。言われたことをやるのではなく、「何をするのか、そのためにはこんなことが必要になるから、まずこれをしなければならない。そうすれば新たにこんなことも実現できる」というように自分で必要なものを考え、足りないものを見つけて仕事をすることはとても楽しいです。

例えば、日本海沿岸では冷凍庫や冷蔵庫が少なく、捕れた魚をすぐ出荷しないと腐ってしまいます。この場合、冷凍庫や冷蔵庫を作れば魚を保存できるようになり、漁の出来に左右されず魚の安定供給が可能になるので、お客様も漁師も喜ぶこととなります。また、販路の開拓も新しく仕事を創り出していくことになり、漁師の収入アップにもつながる。これもやりがいがありますね。

仕事の進め方で工夫していることは？

最終目標地点を設定し、いつまでに何をどうしたらよいかを逆算して仕事の計画を立てます。ただ漠然と仕事をするのではなく、目標に向かって今の段階で何が必要なのか、何が足りないのかを見極めながらこなしていきます。これは仕事だけでなく勉強でも同じことだと思います。

これからの目標を教えてください

まずは深浦町のマグロの認知度を上げたい。青森といたら「マグロ」というイメージを定着させたいですね。そして、青森県内の漁師さんともっと密接なネットワークを構築していきたい。

当社に問い合わせれば「捕れたての青森県の美味しい魚が手に入る」という成功事例を作り、衰弊している県内の漁業者が元気になるような、生産者と消費者の仲立ちの仕組み作りが目標です。



魚を神経締めするワイヤーは移動用の自動車に積んで常に持ち歩いている

野呂さんのある1日

Time Schedule



6:00	起床	漁に同行するときは、2時起床
8:00	出勤	
9:00	マグロの状況を電話で確認 マグロ取り引きなど	
12:00	昼食	
13:00	書類の作成や打ち合わせ 研究所で商品の試作品開発など	
20:00	退社	打ち合わせは、大間や竜飛に行くことも
21:00	夕食 食後はNPOの経理など	
24:00	就寝	

職業人七つ道具

Work Tool



スマートフォン・パソコン・携帯電話
スマートフォンはデータ通信やメモ、スケジュール管理に使用。どこでも仕事ができるように、通信機器は必需品。

野呂 英樹さんからのメール

社会に出てからは、相手が話す言葉の裏を読み取ることが大切。その言葉の真意を的確に察知し、言われる前に提案、実行していく能力が求められます!!

会社概要

株式会社あomorい海山

〒038-2202 西津軽郡深浦町岩崎字松原193-2
TEL:0173-77-2102 FAX:0173-77-2450
URL:http://www.aomorikaisan.co.jp

- ◆設立:2013年8月
- ◆代表取締役:堀内精二
- ◆資本金:1億50万円
- ◆従業員数:4人
- ◆業務内容:海産物・農産物の加工、開発、販売など

